



©TOMONORI TANIGUCHI 2018
この絵は、さまざまな“ちがひ”をもつ人びとが、互いに認めあえる共生社会をイメージしています。

ふくしおおさか

～ 出かける つなぐ 創る～

No.706

新春
号

2026



飛躍

新春インタビュー
バイリンガル落語家 ^{きちじつ}ダイアン吉日さん

焦点

Fukushi Osaka Column

広島市といっても山裾の田舎に住む親戚の畑では獣害が深刻だ。

ネット欄にもかかわらず、昨年は翌日収穫予定だったカボチャ34個が、夜のうちにイノシシの「運動会」で根こそぎ葉っぱまで食い尽くされた。今年は、ソラマメが収穫時期と思ったら全て猿に盗難される被害に遭った。「悔しい!!」と高齢の父親にいうと、「あれらも生きていかなきゃいけない。植えた半分食べられたらええけん」といつもどおりやさしい。

庭先の柿の木に熊の爪痕と糞が見つかり、市役所農林課がハチミツを仕掛けた檻と監視カメラを設置したが、熊は出沒せず罌は撒収。鹿が毎晩カメラに写り、外来種の大きな狸も。

親戚は今何とか黙々と共存しているが、やさしい父親に免じて、この距離を保ってほしいと願うばかりだ。

【矢】

飛躍

古典を現代へ、世界へ。
日本文化を楽しく届ける
バイリンガル落語家の軌跡。



4月13日から10月13日まで夢洲で開催された大阪・関西万博。閉幕から数カ月が経った現在もその熱は健在です。
今回は、大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトにて司会を務めたダイアン吉日^{きちじつ}さんにインタビュー。
バイリンガル落語家として世界で活躍されるダイアンさんに、日本との出会いやバイリンガル落語の魅力、これからの抱負について聞きました。

落語との出会い

バックパッカーとして世界中を旅していたダイアンさん。旅の途中でできた友人から、日本への旅行を強く勧められたことがきっかけで日本を訪れました。幼少期から物を作ることや絵を描くことが好きだったこともあり、陶芸や華道、茶道などの日本文化を学んでいきます。

落語との出会いは、英語落語の先駆者として知られる2代目・桂枝雀^{かえだしやう}さんのお茶子を経験したこと。枝雀さんの落語を見て「扇子と手拭いだけで100年前の日本の風景が想像できたことに感動した」と話します。その後もお茶子を超えるうちに、落語を披露する機会があり、演じることの楽しさに気がつきました。

「バイリンガル落語」の魅力

ダイアンさんの落語は、日本語と英語を組み合わせた「バイリンガル落語」。古典落語では海外の方に伝わりにくい描写もあるため、ダイアンさん流にアレンジをします。古典落語の「まんじゅうこわい」という演目では、海外の

方はまんじゅうが想像しにくいいため、「すしこわい」にアレンジして演じます。想像しやすいダイアンさんの落語は、日本の子どもたちからも分かりやすいと人気です。
英語が公用語ではない国からも、公演の依頼があります。観客からは、日本の文化と英語をどちらも勉強できることによる「ぶさが届きます」「笑って楽しく勉強することができたら、記憶にも残りやすい。それがバイリンガル落語の魅力」とダイアンさんは語ります。



大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトのようす

夢を諦めないで

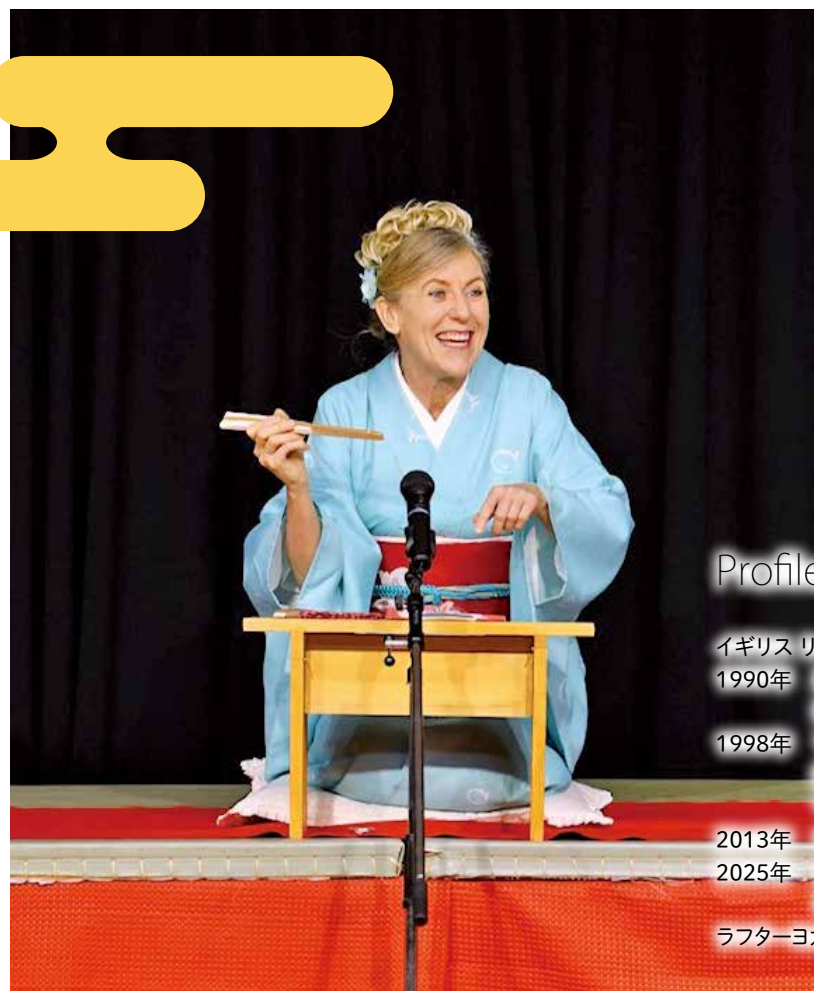
落語だけでなく、「旅行の話」、「各国の文化について」、「外国語の勉強方法」などをテーマに、60カ国以上の国々を回った経験を踏まえた講演会も行っています。重く受け止められがちな話題も、笑いを交えながら話すことで、楽しく聞いてもらえるように意識しています。

講演会のひとつには、夢を諦めないことの大切さをテーマにしたものがあります。学生時代、外国語を学ぶ中で教師から「あなたには無理だ」といわれたこともありましたが、諦めずに学び続けたダイアンさん。「今、外国に住んで外国語で生活しています！」。

万博の司会では、失敗しても乗り越えられるから諦めないでほしいという思いをもつて、バックステージでの関わりを大切に、発表者にエールを送っていました。「さまざまな立場の人々がみんな頑張れたことがうれしかった。みんなが頑張っていたから自分も頑張ることができた」とダイアンさんは振り返ります。

幸せのツールボックス

人と会って生まれるつながりが好き



Profile

バイリンガル落語家
ダイアン吉日 ^{だいあん きちじつ}

イギリス リバプール出身。

1990年 来日。華道(三先流師範取得)、茶道(表千家師範取得)、着付けをはじめとした日本文化に広く精通する。
1998年 ワッハ上方(大阪)にて落語の初舞台を踏む。その後、アメリカやイギリス、インドなど30カ国以上の国々で落語を披露する。

2013年 中曽根康弘賞を受賞。

2025年 大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトで司会を務めた。

ラフターヨガアンバサダーやパルーンアーティストとしても活躍中。

抽選で1名様 直筆サイン色紙プレゼント!

右記の2次元コードから応募フォームにそってご回答ください。
ご応募お待ちしております。

※ 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
※ 応募者の個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。
※ 重複応募・必要事項の入力漏れは無効となりますのでご注意ください。

読者プレゼント

応募
締切 2月13日(金)

